

由利本荘・にかほ、 町おこしからはじまる地域包括ケア！

谷合 憲明 氏

特定非営利活動法人由利本荘にかほ市民が健康を守る会
理事長



1.実施内容の概要

高齢化率全国1位の秋田は言い方を変えれば少子高齢化の最先端であり、今後は日本の都市部や韓国や中国などのアジア地域も同様に高齢化することを考えると、世界1位のモデル地域と言える。しかしながら人口減少は歯止めがきかず、また医師や看護師、介護士等のマンパワーの不足は著しく地域医療を支えるためにはそれらを補完するようなイノベーションが必要と考えられる。イベントを定期開催し横断的なつながりを強化するとともに、地域のニーズを拾い上げる。また口腔ケアや食事介助等の摂食嚥下のアプローチや誤えん性肺炎予防、看取りを含めた在宅医療を推進することで地域住民に寄与するだけでなく病院の医師や看護師の負担軽減の一助とする。摂食嚥下の取り組みについては先日「週刊文春」でも取り上げられた。そして先進的な取り組みを発信することで医療・介護専門職の誘致に結びつける。今年度は2名の摂食・嚥下障害認定看護師と訪問看護認定看護師が移住してきている。空き家対策として今後、高齢者住宅に大学生がルームシェアする取り組みも企画されており、前年度からすでにルームシェアの実証実験がはじまっている。

2.活動の実施方向

(1) 医療・介護・福祉関係者と地域住民、大学生等で定期的に集まりを開催する。

ア「在宅医療連携会議」月1回、医療・介護・福祉関係者が集い、医療や介護技術の啓発、症例検討等を行い多職種連携とスキルアップを行う。

イ「ケアカフェ」月1回、医療・介護・福祉関係者や地域住民、大学生が集い、語り合う。

ウ「認知症カフェ」月1回、公益社団法人認知症の人と家族の会秋田支部と協働して認知症を介護する家族への

介護技術啓発や医療・介護制度の情報提供を行う。

エ「がんカフェ」月1回、以前より地域で「がんカフェ」を開催していた2団体と協働し担癌者とその家族、医療・介護・福祉関係者、地域住民が集い、患者本人の相談や不安の軽減、介護者への介護技術啓発や医療・介護制度の情報提供を行う。(3回開催)

オ「体操教室」月1回、オリジナルスマイル研究所の小山田聖子先生(日本体育協会認定スポーツリーダー)を講師に招いて高齢者の要介護予防、障がい者の生活習慣病予防等を目的に体操を行い、その後、お茶会をします。

カ「ホースセラピー」年4回、ゆり高原ホースパークにて子どもから高齢者まで、がんなどの病気の方や障がい者の方も参加されます。

キ「移住者のつどい」年4回、医療・介護・福祉関係者も含め由利本荘市に移住・定住している方が集まり、情報交換を行います。

(2)「最期まで口から食べる」支援と「誤嚥性肺炎の予防」

平成28年度から秋田県の事業として「最期まで口から食べる県、秋田！」という取り組みを当NPO、秋田県歯科医師会、秋田県歯科衛生士会、市町村(由利本荘市、にかほ市)、介護施設、企業(株式会社クリニコ・株式会社ツルハ・株式会社大塚製薬工場)等で行っている。医療・介護関係者や一般市民への口腔ケアや食事介助技術を啓発し誤嚥性肺炎の予防し、最期まで経口摂取できるようにすることを目標としている。このノウハウを取り入れ地域で定期的に実技セミナーを行う。

(3) 医療・介護・福祉関係者の移住や定住の促進

由利本荘市の移住・定住を支援する部署と連携し、「移住者の会」の開催ややりがいのある仕事ができる職場へのマッチングを行うことで医療・介護・福祉関係者の移住や定住の促進を促す。